

水源地域対策の概要

ダム湖を活用した地域活性の取組(水陸両用バスの運行)

水源地域活性化リーダー養成研修

水の里応援プロジェクト

水源地域対策アドバイザー派遣事業

水源地域整備計画に基づく地域整備

水の里の旅コンテスト

ダムの観光放流

上下流交流による植林体験

生活再建相談員研修

国土交通省 水管理・国土保全局
水資源部 水資源政策課
水源地域振興室

平成24年7月

水源地域対策の全体像

- 水源地域対策とは、ダム等の建設に伴う水没によって、住宅、農地、山林等の生活基盤を失うダム周辺の住民及び地域に対し、国と関係自治体が連携し、生活再建対策や地域振興対策を講じるものです。
- 水源地域対策には、ダム事業者による補償、水源地域対策特別措置法(水特法)、水源地域対策基金、水源地域の活性化のための国のソフト対策の4つの柱があり、相互に補完し合い、総合的な対策が講じられています。

ダム事業者による補償

水没する私有財産の補償(移転)と水没する公共施設の原状回復(移転)

○ダム事業者の予算

- ・付替道路整備
- ・代替地造成
- ・公共施設移転 等

水源地域対策特別措置法(水特法)

補償を補完し、水源地域の生活環境、産業基盤を整備(公共事業の計画的実施)

○公共事業所管府省及び地方公共団体の予算

- ・道路整備(拡幅等)
- ・土地改良
- ・下水道
- ・スポレク施設
- ・治水

などの24種類の事業

○水特法に基づくダム指定等の施行事務は水源地域対策課が実施

水源地域対策基金

補償及び水特法を補完し、きめ細かな生活再建対策等を実施

○上下流の自治体が共同で設立、事業費は下流が負担

- ・生活再建相談員の設置
- ・代替地資産取得利子補給
- ・集会所整備 等

水源地域活性化のための国のソフト対策

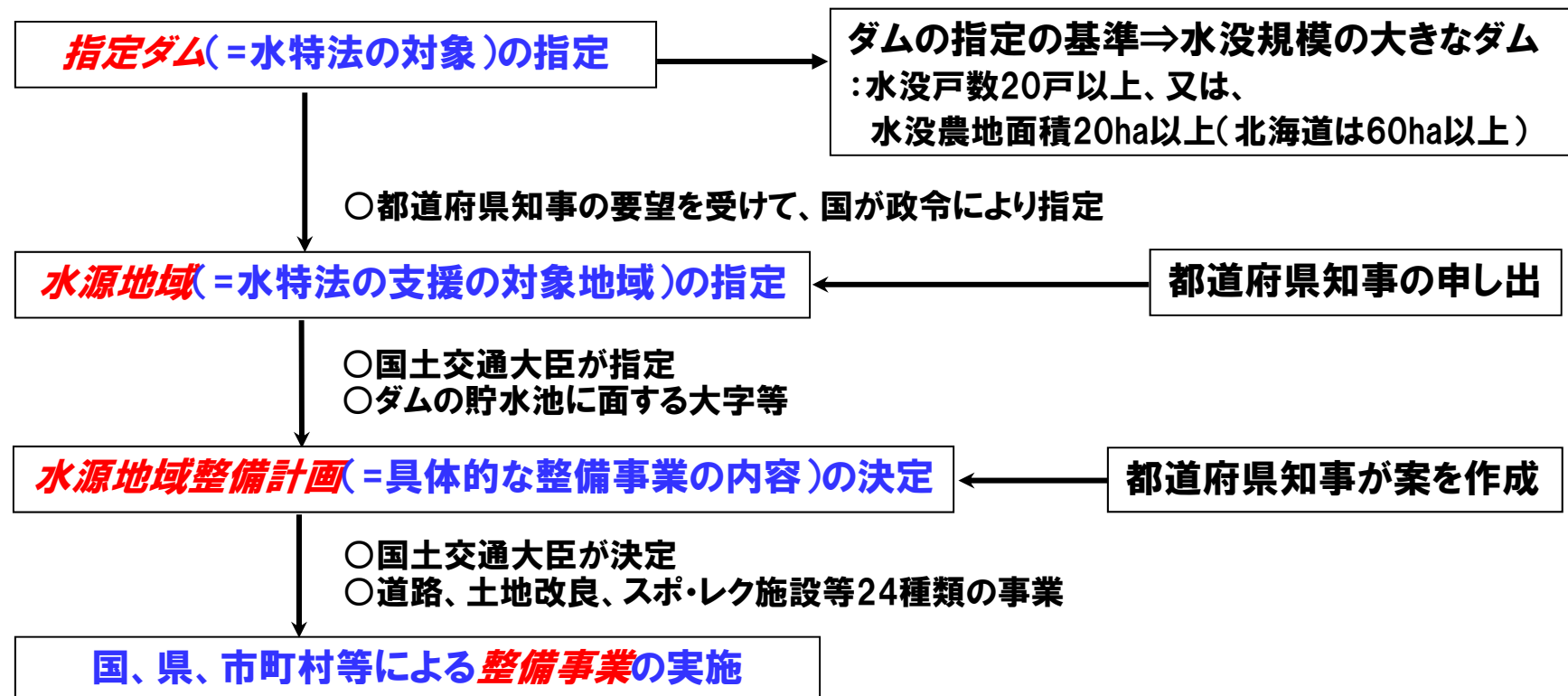
- ・水源地域対策アドバイザー派遣
- ・水源地域活性化リーダー養成研修
- ・生活再建相談員研修
- ・水源地域活性化調査
- ・水の里応援プロジェクト 等

水源地対策特別措置法(水特法)の仕組み 昭和48年制定

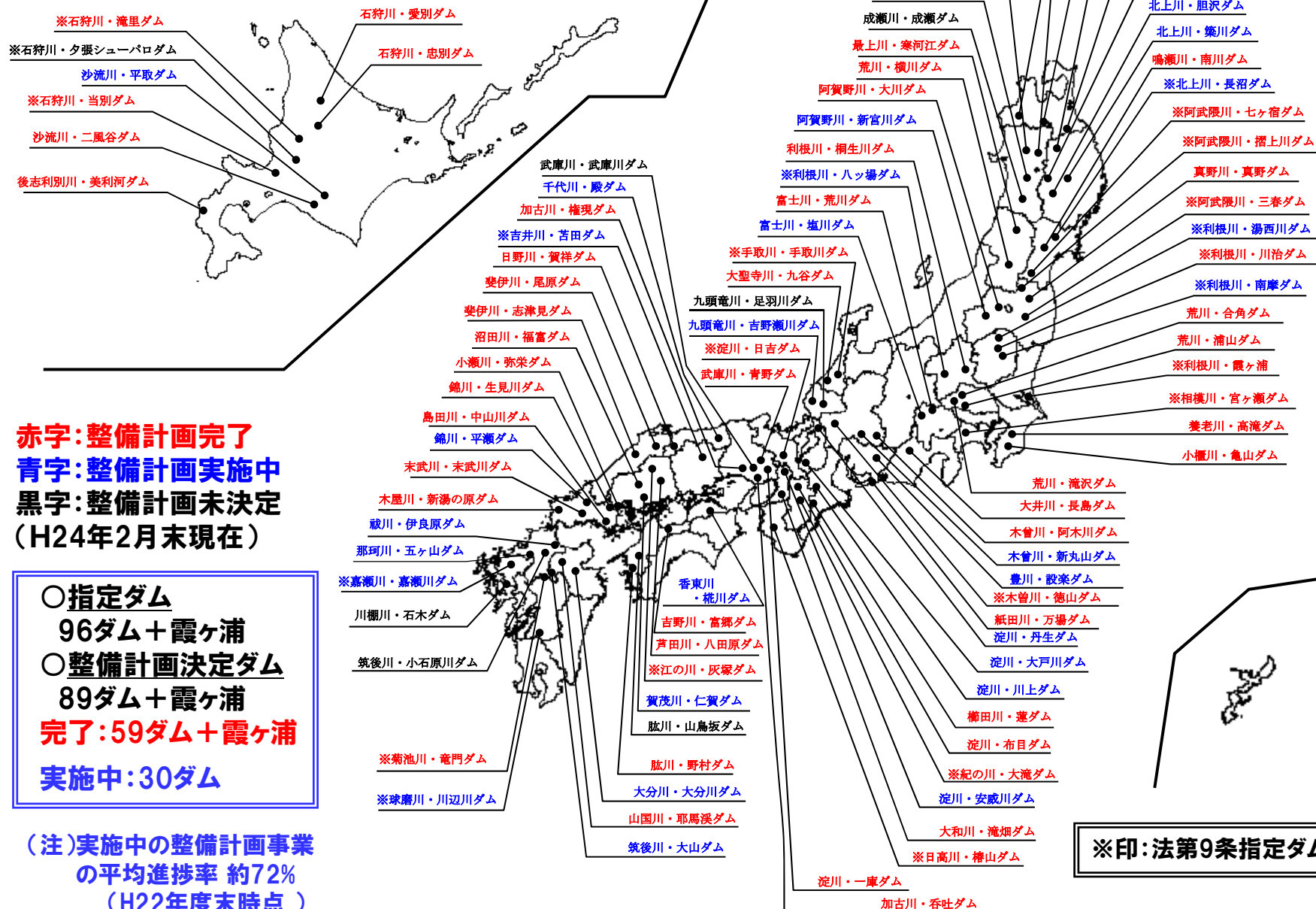
目的： 水源地域の生活環境、産業基盤等の整備によるダム等の建設の促進

【水源地域対策特別措置法のメリット】

- 事業費(地元負担分)の下流の受益地域による一部負担
- 大規模水没ダムは国庫補助事業の補助率の嵩上げ
※水没戸数150戸以上又は水没農地面積150ha以上
水源地域所在県以外の都府県が受益者になる場合は、75戸以上または75ha以上
- 国及び地方公共団体による水源地域の活性化のための努力義務 等



水特法の指定ダム



水源地域整備計画に基づく事業の実施事例

水特法で「水源地域」に指定されたダム周辺の地域では、利便性、生産性、生活環境の向上のため、水源地域整備計画に基づいて道路整備、土地改良事業、下水道整備などの事業が地域の状況に応じて実施されます。水源地域整備計画で実施できる事業は、以下の種類の事業を始め24種類あります。

道路



水源地域住民の生活の利便性の向上を図ります。公共補償による付け替え工事と合併で整備するケースもあります。

土地改良



農地の基盤整備を行い、生産性の向上を図ります。

下水道



水源地域の活環境の向上を図ります。ダム湖の水質保全を図るため必要な場合は、水源地域外でも整備することができます。

治水



砂防堰堤の例

水源地域における水害、土砂害を防止し、安全性の向上を図ります。

林道



林道の整備を行い、林業経営にあたって利便性、生産性の向上を図ります。

簡易水道



水源地域住民の安定的な生活用水を確保し、生活環境の向上を図ります。

水源地対策基金（昭和51年度～）

- 水源地対策基金は、ダム事業者による補償及び水特法を補完し、きめ細かな生活再建・地域対策を実施するため、昭和50年代以降、上下流の地方公共団体等の出えんにより設立されました。
- 現在、公益法人制度改革をうけ各基金は、公益財団法人への移行に向けた手続きを進めており、平成24年4月1日には豊川水源基金、矢作川水源基金が、平成24年7月2日には利根川・荒川水源地域対策基金が公益財団法人に移行しました。

国所管の水源地対策基金(指定水系、複数の県域に係るもの)

公益財団法人 利根川・荒川水源地域対策基金

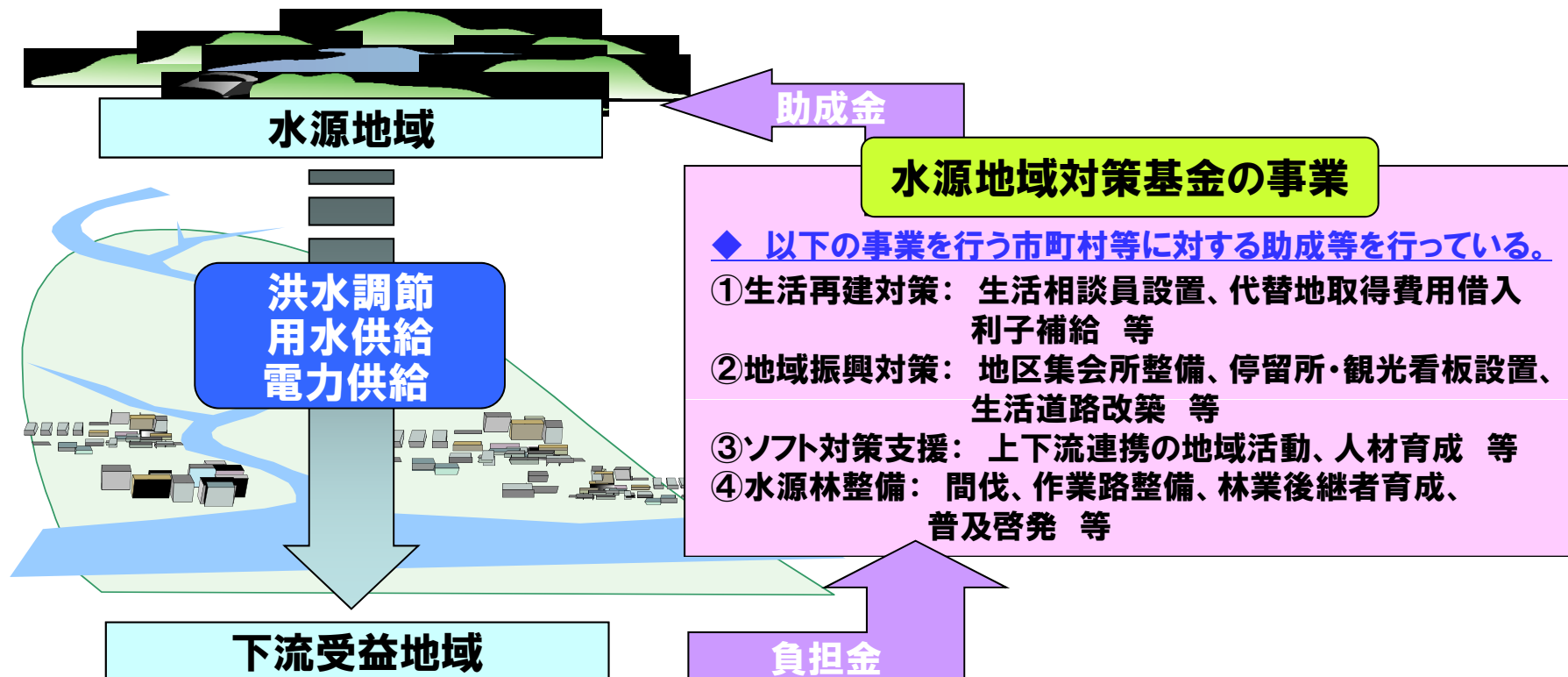
財団法人 筑後川水源地域対策基金

財団法人 木曽三川水源地域対策基金

財団法人 吉野川水源地域対策基金

公益財団法人 豊川水源地域対策基金

公益財団法人 矢作川水源基金



水源地域活性化リーダー養成研修(平成13年度～)

【概要】水源地域の市町村職員やNPO関係者等を対象とした地域リーダーの養成研修

水源地域の活性化のためには、地域を担うリーダーの存在が重要です。本研修は、地域づくり・地域の活性化に取り組んでいる経験豊富な講師による各種の事例紹介、受講生が抱えている地域の課題に対する講師及び受講生相互の意見交換、リーダーに必要な意見集約手法を学ぶワークショップ等を通じ、水源地域を担う地域活性化リーダーの養成を図ることを目的としています。

※平成23年度までに、本研修を、12回開催し、120名が修了しています。

【平成23年度の実施状況】

○9月7～9日、長野県木祖村
(木曽川水系味噌川ダム)
で実施

○カリキュラム:参加者の地域が抱える課題と解決方法に関する発表、討議、助言等



研修でのワークショップ状況



受講生の発表状況



水源地対策アドバイザー派遣(昭和63年度～)

【概要】 地域活性化の専門家が現地で活性化の方向性について助言

本制度は、水源地域の活性化に取り組んでいる地域に対し、ダム所在市町村の要望に基づき、地域活性化についての様々な分野の専門家(水源地対策アドバイザー)を派遣するものです。アドバイザーは、現地を3回程度訪問し、地域の資源、産業基盤の状況等について現地関係者と意見交換を行い、活性化の方向性やその手法等について具体的な助言を行います。

アドバイザーには、次の6つの分野の15名の専門家に委嘱しています。

観光・レクリエーション 農山村振興 産業振興・工業立地
生活再建対策 イベント企画 流域連携

【平成23年度の実施状況】

○派遣地域

- ・島根県雲南市・奥出雲町(斐伊川水系斐伊川・尾原ダム)
流域連携、農山村振興に関する助言を実施
- ・佐賀県吉野ヶ里町(那珂川水系那珂川・五ヶ山ダム)
観光・レクリエーション、イベント企画等に関する助言を実施



雲南市・奥出雲町でのアドバイザーの講演の様子



吉野ヶ里町での住民との意見交換の様子

【水源地域対策アドバイザーの名簿と近年の派遣実績】

- 6つの分野、15名の専門家に水源地域対策アドバイザーを委嘱
- 近年10年間(H14～23年度)では、のべ18地域に38名のアドバイザーを派遣

水源地域対策アドバイザー名簿

(観光・レクリエーション)

古賀 学 松蔭大学観光文化学部教授
 田部 和博 労働金庫連合会
 涌井 雅之 東京都市大学環境情報学部教授

(農山村振興)

齋藤 章一 (財)都市農山漁村交流活性化機構専務理事
 高橋 充 (株)南信州観光公社代表取締役社長

(産業振興・工業立地)

真野 博司 (株)産業立地研究所代表取締役社長・所長
 宮本 博光 (有)グリーンエコー代表取締役

(生活再建対策)

黛 衛和 土地家屋調査士・行政書士

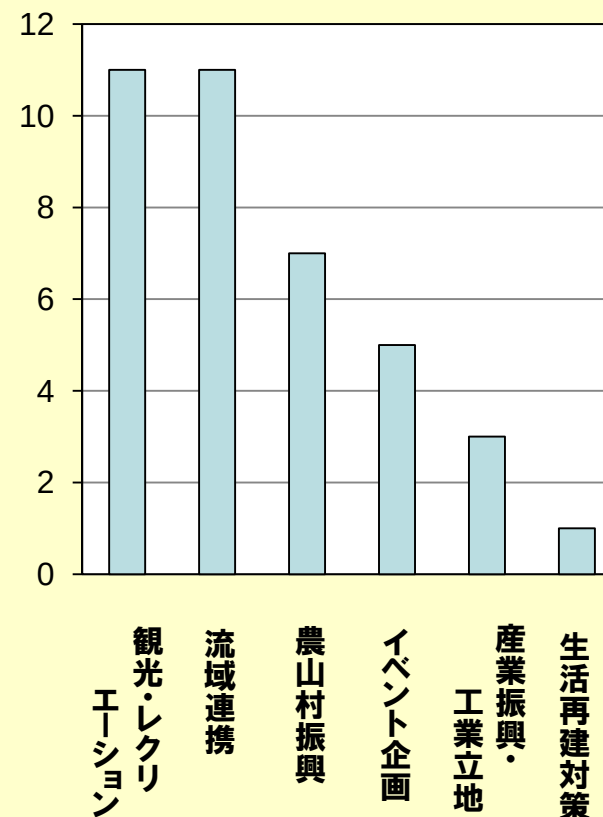
(イベント企画)

北本 正孟 (株)カントリー代表取締役
 二瓶 長記 (株)タップクリエート取締役会長

(流域連携)

安藤 周治 (特)ひろしまね理事長
 大滝 聡 (有)オム・クリエイション取締役
 岡部 恵美子 (特)NPO Do! tank 代表
 町田 輝次 (特)地域リサイクル推進機構専務理事
 松村 紅実子 オフィス計都代表

(人)



アドバイザーの派遣実績
(H14～23年度)

【水源地域対策アドバイザーの平成23年度の派遣概要】

■ダム湖を核とした地域づくりのあり方、上下流連携の方策（島根県雲南市・奥出雲町：尾原ダム）

希望する指導内容	指導した内容
ダム湖を中心とした一体的な地域づくりを行う機運はあるものの組織間の連携が不十分であり、行政との一体的な地域づくりを行う基本的方針について ダム湖、周辺施設を活かした地域づくりの具体的方策や上下流連携、農山村振興のあり方、について	○流域連携の指導分野の安藤周治氏、松村紅実子氏をアドバイザーとして、現地に3回（12月、1月、3月）派遣。 ○アドバイザーの指導の概要 第1回 アドバイザーの現地調査、アドバイザーと地域の方々との意見交換。 第2回 松村アドバイザーから「女性が輝けば地域が輝く」と題した講演を頂き、自身が活動する大分県の女性が地元の食材や食文化を活かし人気料理を生み出している事例を紹介。地域振興の鍵として「連携」「地域の歴史を重視」「身の丈に合った活動」を挙げ、女性の行動力や情報発信、収集する必要性を提言した。 第3回 安藤アドバイザーから「地域のたからものを活かそう！」と題した講演を頂き、これまでの地域の方々との意見交換を踏まえ、地域づくりの取り組みの方向性を提言。

■既存観光施設との連携、イベントを活かした地域の活性化、流域連携（佐賀県吉野ヶ里町：五ヶ山ダム）

希望する指導内容	指導した内容
既存観光施設と新たに整備される施設を連携させた観光ネットワークづくりについて 地域活性化に寄与するイベント企画について 流域連携における実施主体のあり方、運営方針等について	○観光・レクリエーション分野の涌井史郎氏、イベント企画分野の二瓶長記氏、流域連携分野の松村紅実子氏をアドバイザーとして、現地に3回（9月、11月、2月）派遣。 ○アドバイザーの指導の概要 第1回 アドバイザーの現地調査、アドバイザーと地域の方々との意見交換。 第2回 涌井アドバイザーから地域資源（吉野ヶ里国営公園や地域気産品（お茶等））を、より活用し、下流福岡都市圏の住民に働きかけていくこと、また、湖面活用についての検討を助言。二瓶アドバイザーから、新潟県柏崎市の狐の夜祭りを事例に、イベントのコンセプト、ストーリー化していくことの重要性を指導。松村アドバイザーより佐賀県だけではなく福岡県との交流・連携も積極的に取り組むこと、また、老若男女が参加し、先人の知恵を若い世代に伝えていくことの重要性を助言。 第3回 指導分野ごとに地域住民とアドバイザーの分科会を開催、意見交換を実施。全体報告会で各アドバイザーからこれまでの意見交換を踏まえ、地域づくりの取り組みの方向性を提言。

生活再建相談員研修(平成2年度～)

【概要】 水没関係者の生活再建相談に携わる市町村・都道府県の職員等を対象とした研修

ダムの建設にあたっては、ダム建設による水没関係者に対して専門知識に基づいて適切な生活再建対策を講じることが重要です。本研修は、水没関係者が生活再建を図っていく際の相談窓口である市町村・都道府県の生活再建相談員等を対象として、業務に必要となる見識、ノウハウを修得するものです。

※近年10年間(H14～23年度)に、本研修を、14回開催し、137名が修了しています。

【平成23年度の実施状況】

○10月27～28日

○国土交通省(中央合同庁舎2号館1階共用会議室)

○参加者:5名(群馬県、愛知県、福井県)

○カリキュラム

- ・水源地域対策の現状
- ・不動産関係税務
- ・補償概論及び事例
- ・水没移転者への接し方
- ・生活再建相談業務に関わる意見交換



研修状況(中央合同庁舎2号館1階共用会議室)

水源地域活性化調査(昭和62年度～)

【概要】 水源地域市町村やNPO等による地域づくり活動の立ち上げ・実施を支援

水源地域のダム等を含めた各種の資源(森林・水・観光資源・物産・文化財等)を活用した水源地域の地域づくり活動の企画・立案、実施(試行)、評価を国の委託調査として実施できます。平成21年度より、国が直接、地域活性化の担い手である、NPO、市町村、協議会、大学等へ委託して実施しています。

※これまで57箇所の水源地域で調査を実施しています。

【平成23年度の実施状況】

平成23年度水源地域活性化調査一覧

水源地域	ダム名	実施主体
大分県日田市	大山ダム	NPO法人初島森林植物園ネットワーク
香川県高松市	栂川ダム	NPO法人しおのえ
福井県越前市	吉野瀬川ダム	しらやま振興会



大山ダム



栂川ダム



吉野瀬川ダム

水の里応援プロジェクト(平成21年度～)

【概要】 水源地域(水の里)の着地型観光や特産品のプロモーションを実施

水資源の起点である水源地域の保全、活性化のため、水源地域の特産品・観光資源を全国の市場に伝え、訴求する「水の里応援プロジェクト」を国土交通省水資源部と観光業界、流通業界が共同で実施しています。

【実施内容】

○水源地域の着地型観光の推進

水の里の旅コンテスト(平成21年度～)

水の里ならではの観光資源を活かした地域活性化につながる旅行企画のコンテストを実施しています。

受賞企画については、観光業界によるプロモーション活動を実施すること等により、水の里の地域活性化を応援していきます。



旅フェア2010での表彰式(主催:国土交通省、協力:旅フェア実行委員会、(社)日本観光協会、会場:幕張メッセ)

○水源地域の特産品のプロモーション

水の里ならではの魅力を活かした特産品の都市部への販路拡大に国土交通省水資源部と食品流通業界が共同で取り組んでいます。

全国のバイヤー等を対象にした物産展の実施等のプロモーション活動を展開し、水の里の地域活性化を応援していきます。



フードコンベンションでのプロモーションの様子
(協力:日本アクセス(株)、会場:さいたまスーパーアリーナ)

「“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト2012」各賞受賞者等一覧

	受賞者	観光地域	受賞企画のタイトル
優 秀 賞	社団法人東根市観光 物産協会	山形県東根市	水がもたらす食文化体験 ～食卓の脇役が主役になった記念日～
奨 励 賞	しらやま振興会	福井県越前市 しらやま地区	源流の里で出会う、コウノトリと森のおい しい水 ～里山の、隠れた特産たくさん発見！～
	鹿児島県さつま町	鹿児島県さつま町 (川内川)	さつまリバーツーリズムin川内川 ～「旬体感」：農家民泊&川舟に乗ってホ タルを見よう～
	都会と田舎を結ぶ食 育ネット	愛媛県南予地域 (内子町・大洲市)	水のみちをたどる旅 ～山をのぼり、川をくだり、水と人とた わむる子どもたち～
東 北 特 別 賞	一般社団法人只見町 観光まちづくり協会	福島県奥会津	尾瀬から続く水の恵み 自然首都・只見 水の恵みと農村生活満喫プラン
日 帰 旅 行 賞	安曇野案内人倶楽部	長野県安曇野	安曇野・水辺のガイドウォークツアー ～名水百選の里・安曇野わさび畑湧水群 と田園風景を現地ガイドと巡り歩く～
	NPO法人多摩源流こ すげ	山梨県北都留郡 小菅村	源流体験

水源地域活性化フォーラム

【概要】水源地域の活性化をテーマにしたフォーラムを開催

水源地域の活性化に携わる方々や関係者(自治体職員、NPO等関係団体、コンサル企業等)を対象に、開催していきます。

※平成7年度より例年、水の郷認定市町村等を対象に「全国水の郷サミット」を開催していましたが、より実務家向けの内容に変更し、新たに「水源地域活性化フォーラム」として開催することとしました。

【平成23年度の実施内容】

○日時:平成23年12月5日

○場所:国土交通省(中央合同庁舎3号館10階 共用会議室A)

○参加者:約90名

○テーマ:～水源地域における“地域づくり”のための戦略を探る～

○プログラム

・講演1 着地型観光と地域づくり

岩手大学農部准教授 山本清龍

・講演2 「いいもの」から「買いたくなるいいもの」へ

(有)良品工房代表取締役 白田典子

・報告「水の里応援プロジェクト」の実施状況について

国土交通省水源地域政策課水源地域振興室

・鼎談:

安藤周治(NPO法人ひろしまね理事長/国土交通省水源地域対策アドバイザー)/
山本清龍/白田典子